平成２５年度　評価結果報告

フィードバックレポート

『小平市立障害者福祉センター』

多機能型事業所

ＮＰＯ法人福祉経営ネットワーク

Ⅰ．全体の講評

《事業所名：小平市立障害者福祉センター》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	会議室等の地域への開放、スポーツ推進委員研修、スポーツ・レクリエーション教室等開かれた事業所を目指している
	内容	地域に開かれたセンターを目指して、地域住民や各種団体の交流の場として、「センターまつり」「暮らしのちょっとちょっと講座」の実施、会議室等を障がい者団体や地域住民に開放している。また、専門性をいかした活動として、スポーツ推進委員に対する障害者スポーツ研修、障害者対象にショートテニス・ボッチャ交流会、ラージボール卓球などのスポーツ・レクリエーション教室を開催し、地域に機能・専門性を還元している。
2	タイトル	利用開始時やサービス終了時には、学校や作業所等と連携を取りながら利用者が円滑に移行できるよう支援している
	内容	生活介護事業では、特別支援学校を卒業後に利用する状況が多く、高校1年の時から見学や実習を経験している。また、入所2～3ヶ月前には3～5日間担当職員が付いて実習を行い、人間関係を築くようにしており、この段階で学校の教諭にも同席を依頼し、介護面等の引き継ぎを行うようにしている。一方サービス終了時、特に自立訓練事業では、移行先が作業所であれば利用中に先方の実習を体験しており、必要に応じて理学療法士とともに訪問して移行先に要望を伝える等、スムーズに移行できるよう配慮している。
3	タイトル	利用者の個別性に配慮し、個々の生活が豊かになるように支援している
	内容	利用者一人ひとりの個別支援計画に基づき、個々が希望するプログラムや活動に取り組んでいる。生活介護においては、生活支援、健康管理、個別的なリハビリテーション、レクリエーションや創作活動の際、利用者の意思を確認し尊重した支援に努めている。自立訓練においても同様の活動の他、作業所見学や外出の機会を設け、興味や関心をもつことの大切さに気づくことが、リハビリの一環になっている。これらのことが生活に潤いをもたらし、活力につながっている等の事例もあり、通所時の活動にとどまらず、生活の豊かさにつながるよう尽力している。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の能力向上を図るための個人別育成計画の策定と実施に期待したい
	内容	新任研修、中堅職員対象の中核人材育成研修・指導職チャレンジ研修、指導的職員研修等階層別研修を法人内研修として、該当者を対象に実施している他、研修参加後は、研修台帳に個人別研修歴を記録している。目標管理制度を導入し、能力向上でどのように利用者に還元したいか等、希望を聞いているものの、職員の希望と事業所として求める能力に基づいた、個人別の育成計画の策定までは至っていない。事業所として、人材育成計画の必要性を認識しているため、今後の取り組みに期待したい。
2	タイトル	職員が自分の言動や行動等について定期的に自己チェックあるいは相互チェックする等、具体的な取り組みを検討されたい
	内容	職員が利用者の気持ちを傷つけたりすることがないよう、年度当初には倫理綱領の読み合わせを行って職員の注意を促している。また、気になることがあれば日々のミーティングでも取り上げ、検討している。日常の関わりの中で当たり前となっている対応が、権利侵害につながるかもしれないという危機感を持つことの重要性を認識しているため、障害者虐待防止法が制定されたことを機に、職員が自分の言動や行動等について定期的に自己チェックあるいは相互チェックする等、具体的な取り組みを検討されたい。
3	タイトル	事業所のサービスの質を維持・向上させていくための手順の見直しと標準化のしくみの構築が期待される
	内容	危機管理マニュアル等のマニュアルは整備されているが、日常業務におけるマニュアルについては、現状に即した内容のものを徐々に着手し始めている。現状、常勤のベテラン職員を柱として、サービスの質を維持するよう努めているが、事業所としてこれまで積み上げてきた経験等を蓄積し、新任職員等へ引き継げる内容としくみの必要性を認識している。今後は、人が代わってもサービスの質が維持できるよう、事業所として大切にしていることを実践するための標準化のしくみづくりが期待される。